

イタリア

イタリアと
日本をつなぐものあきやま みつき
秋山 美月さん

卒業制作と論文のプレゼン（写真右、スーツ）

年月	国名	学校名	課程名	留学の種類	奨学金の有無 (有：名称)	備考
2011	イタリア	国立高等学校アウグスト・リーギ卒業 (Liceo Scientifico Statale Augusto Righi)				
2016	日本	琉球大学	教育学部 教員養成 課程美術 教育専攻			卒業、学士
2018	日本	広島市立大学	芸術学研 究科彫刻 研究専攻			卒業、修了
2024	イタリア	ローマ・アッカデ ミア美術学院	環境・パ ブリック 彫刻研究		イタリア政府給付奨学金 ポーラ財団奨学金	卒業、学位取得

卒業後

卒業後はイタリアで芸術活動を続ける予定。

主な展覧会活動は次のとおり。2022年「Transitioning」展（ドレスデン美術大学、ドイツ）
2023年「自立と統合」展（ポーラ・アネックスミュージアム、東京）

「アルテ・ポベラ」と「もの派」、日伊の共通点

私が生まれ育ったイタリアと日本を中心に、両国の文化的・美術的共通点を探り、新たな作品制作を目指しました。特に70年代に現れた「アルテ・ポベラ」と「もの派」は、交流がない中で近い概念や作風に至った点が興味深く、人と自然の原初的関係の回復を目指していました。本研究では、両者の「Essential」な表現に文化や個人を超えた共通感覚があり、人間同士や自然との普遍的なつながりを示していると考えました。

イタリアの美大

イタリア・ローマへの留学を決めたのは、日本の大学での経験を経て、再びイタリアに戻り新たな発見を求めたいという思いからでした。学校選びでは、専門性やカリキュラムの内容を重視し、情報収集は公式サイトや教員などの関係者に直接連絡を取る形で

行いました。準備期間は約1年で、資金はアルバイトと奨学金で工面しましたが、中でも書類の準備が特に大変でした。イタリアの美術系学校は正式には「アッカデミア」と呼ばれ、大学とは異なるため、学位の同等性証明書などの書類が必要となったためです。

口頭試験の厳しさ

イタリアの大学では、試験の多くが口頭形式で行われます。レポート形式やグループワークも存在しますが、それは稀です。「イタリアにいる以上、これくらいはできないとダメだよ」というのが先生方の口癖であり、彼らの文化と歴史への誇りを強く感じました。私は美術・彫刻専攻だったため授業の半分は実技でしたが、美術史、美学、美術理論の授業が特に厳しかったことをよく覚えています。日常生活においては応用力が求められます。バスや電車の遅延やストライキ、授業の移動や振替、さらには先生や他の学生の少し理不尽な行動に至るまで、すべてを真に受けず柔軟に対応することが重要だと感じました。

芸術活動を続けていきたい気持ち

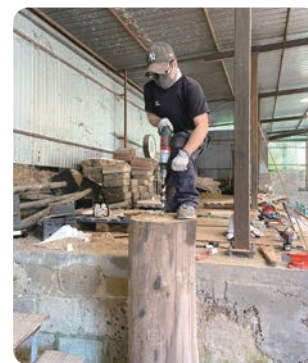
留学後もイタリアで芸術活動を続けたいと考えています。個人的な印象ですが、イタリアやヨーロッパでは芸術活動に対する理解が深く、より受け入れられていると感じます。アッカデミアの大学院（と同等のコース）を修了した際、自分の力量ではこちらで博士号を取得するのは難しいと痛感し、その後就職する道を選びました。

そのまま移住してしまった

現在イタリアに在住しています。卒業後はボードゲームを製作する会社に就職し、生活をしています。仕事をしながら制作に充てる時間を確保し、作品を作り続けています。そのため、留学中に学んだ知識は、日々の制作や生活の中で活かされ続けていると感じています。

書類と契約には注意

家探しなどには特にご注意ください。当たり前かもしれませんが、無契約で入居、領収書を発行しない、通年家賃の20%以上の紹介料を求められるなどには特にご注意ください。そんな時はイタリア人の知り合いなどに同行をお願いするなどの手段で対策することをお勧めします。



制作風景



二人展の発表風景（向かって一番左）

私の語学勉強法

人とのコミュニケーション重視

申し訳ありませんが、特別なアドバイスは難しいです。私は高校までイタリアで過ごし、実質バイリンガルです。ただし、他の留学生を見て感じたのは、勇気を持って実践する人ほど成長が早いということです。半年でB1レベルに達する方もいれば、同国の人とばかり交流して語学力が伸びない方もいました。文法が多少間違っても、イタリア人は寛容に受け入れてくれるので、積極的に挑戦することが大切だと思います。

米 国



ロサンゼルスで夢を描く

いとう みき な
伊藤 弥季南さん



Josua Tree にて

年月	国名	学校名	課程名	留学の種類	奨学金の有無 (有：名称)	備考
2019.5	日 本	早稲田大学 卒業	創造理工 学部 建築学科			
2022.5	アメリカ	南カリフォルニア 大学 卒業	建築学部	大学院 (修士 課程) 留学	JASSO 海外留学支 援制度 (大学院学位 取得型)、大学から の奨学金	Master of Architecture 取 得、パンデミック のため1年休学

卒業後

卒業後ロサンゼルスにて設計事務所勤務。Architectのライセンス取得にむけて勉強中。

世界で活躍する建築家

高校生の頃から海外で働くことへの憧れがありました。学部時代は日本で過ごしましたが、世界で活躍する日本人建築家の姿を間近で見ていると、語学面だけでなく、多文化への理解の深さという点から、やはり数年は海外で過ごすことが必要だと感じ、留学を決めました。日本の設計事務所でお手伝いすることもありましたが、毎日深夜まで働く様子を何度も目の当たりにし、他の国での働き方も見てみたいと思うようになりました。働き始めてからでは留学する機会がいつ来るかわからないと考え、海外大学院に進学することを決めました。

ロサンゼルスで学ぶ

尊敬する建築家やアーティストの多くがアメリカに留学していたため、自然とアメリカを考えるようになりました。その中でも、ロサンゼルスは様々な都市問題を抱えている一方で先進的な技術もあり、学ぶことが多そうだと思いました。さらに、留学先の南カリフォルニア大学はプリツカー賞受賞者を複数輩出していることも大きな決め手となりました。もちろん天気の良いところで過ごしたいというのも1つの理由です。



キャンパスの様子

対話の中で自分を知る

カリキュラムは設計スタジオと講義で構成されています。週3回のスタジオではロサンゼルスで活躍する建築家と議論することができ、自分の興味の幅を広げることができました。講義も多様でしたが、特に企業と共同でナショナルパークにパビリオンを建てたことが印象に残っています。初めの頃は授業についていくことも大変だったため、友達と協力して乗り越えました。ロサンゼルスでの一人暮らしは金銭的にも

治安的にも不安だったので、大学近くで13人でのシェアハウスをしていました。異なるバックグラウンドをもつ学生と過ごす毎日は新鮮で楽しい一方で理解し合えない苦しさもありました。日本について説明する機会も多くあり、その中で自分の育った環境への理解が深まりました。

卒業祝い

留学中は課題に追われて忙しく、ロサンゼルスはまだ理解できていないという感覚があったため、卒業後も残ることにしました。大学のメンターシッププログラムを通して現地で働く卒業生との繋がりがあり、企業訪問やポートフォリオの作り方など参考になりました。4か月の就活の結果、卒業式の日に最初の内定が出ました。

海外で働く、夢を叶えたその先へ

留学を通して、建築には何ができるのか、建築家としての職能を再考することができました。将来の選択肢が増えたことは間違いないですが、それが幸せかどうかは自分次第だと思います。ここでの経験をどのように自分のストーリーに織り込んでいくかが今後の課題です。

留学をデザインする

何を学びたいかだけでなく、留学の経験をどのように役立てていきたいかを考えることで、充実した留学になると思います。ロサンゼルスは1年中夏休みのような気候と曇り気で浮かれてしまいがちですが、大学内外でたくさんの機会があるので、チャンスを掴んで彩りのある留学生活にしていきたいと思います。



元気が出る景色

私の語学勉強法

英語を話している自分を想像する

TOEFLの勉強のためにいろいろと試しましたが、最終的には単語が大事だと思いました。会話で1番効果を感じたのは、同じ映画を繰り返し見てセリフを全部覚えることです。同じ速度でアフレコできるようになれば、言葉が自分のものになったような感覚になります。この人のように話したいと思える人が見つければ覚えやすいです。今でも映画やドラマの引用で毎日を乗り切っています。